

なん てん

身延山大学保護者会機関誌
 発行元 〒409-2597 山梨県南巨摩郡身延町身延3567
 身延山大学保護者会事務局 TEL 0556-62-0107
 発行者 身延山大学保護者会 会長 丸茂玄昌

令和四年度
 保護者会新会長挨拶



丸茂玄昌 会長

令和四年度保護者会長の職務を仰せつかりました丸茂玄昌（山梨県）でございます。前任会長小倉是勇様（山梨県）をはじめ、歴代会長、役員、理事の各位のご功績に恥じぬよう努めさせていただきます。また、未だ収束の見えぬコロナ禍の状況を鑑み、保護者会員の皆様には書面にてのご承認を賜り、ご海容の程御礼申し上げます。新副会長に、前年度に引き続き望月浄教様（山梨県）、前会計監査から就任いただきました杉町智元様（山梨県）、新会計監査に児島孝治様（山梨県）、小林賢光様（静岡県）がそれぞれお引き受け下さいました。新役員共に、保護者会員の皆様、大学事務

局のご理解ご協力を賜り、大学長先生はじめ各専門分野の先生方、大学関係各位と連携して保護者会の円滑な運営に尽力させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

身延山大学保護者会の運営につきまして、ご周知の通り会員各位より頂戴いたします入会金、年会費、賛助会費等を元に、本学生の学びを第一に考えた学内環境整備、広報活動等を主に行なっております。新型コロナウイルス感染症防止のため止むを得ず、理事会、総会、講演会、懇親会等の中止を余儀なくされており、会員各位には書面での報告、提案、承認を行って参りました。心苦しく



杉町智元 副会長



望月浄教 副会長

感じているところではありますが、会員の皆様には例年と変わらぬご理解のもと、多くの賛助会費を賜り誠にありがたく存じております。衷心より御礼を申し上げます。

さて、この三年余りで、私たちの生活環境や様式は大幅に変化したしました。本学生のみならず、保護者の皆様も経済的にも活動的にも、今まで当たり前だと感じていたことが当たり前ではなくなり、生活も大きな制約を受けていることと存じます。収束間近と噂されつつも、日々報道される感染者数も、重症化、後遺症といった報告も後を絶ちません。しかしながら、社会はこの未曾有の事態から得た教訓を生かし、経済活動も徐々に取り戻しつつ兆しが見えてきている様子でもあります。

身延山大学の建学の精神は、社会のためを以て尽くすことの出来る人間の養成を目的としています。宗祖日蓮大聖人の立正安国の精神に則り、一人でも多くの本学生が、この変革の時代、社会でリーダーシップをとり活躍できるよう渴望するばかりであります。また、学生それぞれが、身延山大学を慈しみ、養われる様に、私たち保護者会も、関係各位とともに一丸となって、伸び伸びと学問に、研究にと邁進出来るよう学びの場を整えて参りたいと存じています。

保護者の皆様、関係各聖各位には今後ともご協力の程切にお願い申し上げます、保護者会長就任の挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために保護者会長、同窓会長、保護者の方々を招待せず、規模縮小の中、消毒液を設置し、マスク着用、講堂の窓を開放、換気をしながらの入学式となった。

入学生と教職員関係者のみで執り行ったため、保護者の方々のためにチューブにてライブ配信を実施した。

◆身延山学園理事長・身延山大学持田日勇学長式辞



令和四年度、第二十八回、身延山大学入学式にあたり、身延山学園理事長・身延山大学長として、入学生の皆さんに、お祝いの言葉を贈ります。

本日、身延山大学に入学された新入生十

令和四年度
身延山大学入学式

令和四年四月四日、入学式(十六名)が身延山大学大講堂にて厳粛に執り行われた。



六名の皆さん、入学おめでとう御座います。皆さんのご入学を心より歓迎致す次第であります。

皆さんがこれから勉学に励むこの身延山大学は、日蓮大聖人の御魂が宿る身延山にあって、身延山久遠寺第十四世法主、善学院日鏡上人が、西谷の地に現在の身延山大学の前身であります。西谷檀林という学舎を創立し、講学に努めて以来、四百六十年以上の長い歴史と伝統がある大学であります。

「吹く風も、ゆるぐ木草も流るる水の音までも、此の山には妙法の五字を唱えずといふこと無し」と日蓮大聖人が仰っておられるように、皆さんは、お題目の功德が満ち溢れる法華経の聖地にて勉学に励む事になります。

さて、コロナ禍は二年を経過し、その中で人々の生活スタイルは大きく変化し、これが日常であるかのように感じるようになりました。しかしながら、先の見えない混乱の中で、多くの人々が経済的な困窮や健康への不安を抱え、支援を必要としていることも事実であります。

また現在、ロシアがウクライナへ侵攻し、罪無き多くの人々が苦しみ、尊い命を失っております。戦争が終結し、一日も早く人々の生活が元通りになることを願うばかりであります。

人々はこれまでも、戦争や疫病という幾多の困難を乗り越えてきました。それには、ただただ時間が解決するのではなく、問題

笑顔の給仕 心の給油所

身延西谷 **清水房**

住職 内野光智

七面山敬慎院 別当

〒409-2524
山梨県南巨摩郡身延町身延3616
Tel 0556-62-1054

お題目初唱の霊場

東身延 **藻原寺**

本山 貫首 持田日勇

身延山久遠寺総務
身延山学園理事長
身延山大学長

〒297-0026 千葉県茂原市茂原1201
TEL 0475-22-3153

平成元年身延山久遠寺に依り設立しました

Seisin 株式会社 **せいしん**

御守・線香・経本・写経・数珠・腕輪
各種取り揃えております。

※久遠寺に参詣の折は、
せいしん駐車場をご利用下さい。

〒409-2524
山梨県南巨摩郡身延町身延4252
TEL (0556)62-3033 FAX (0556)62-1033
ホームページ <https://seisin.kuonji.jp/>
メールアドレス seisin@carrot.ocn.ne.jp

日蓮宗総本山
身延山久遠寺

法主 内野日総
総務 持田日勇

〒409-2593
山梨県南巨摩郡
身延町身延3567
TEL 0556-62-1011代
FAX 0556-62-1094

慶讃報恩記念事業推進中

久遠寺 検索

を解決するべく人々の努力がありました。現在、世界中で活発に活動が始まっているSDGsという取り組みを、皆さんはご存じでしょうか。十七の目標、一六九のターゲットを定める「持続可能な開発目標」のことで、「誰一人取り残さない」ことを誓う取り組みであります。

その条文の中で、「レジリエンス」という言葉が何度も使われており、これは日本語で「強靱」や「回復力」また「弾力性」という言葉に訳すことが出来ます。

私がこの言葉を知ったのは、京都文教大学学長 平岡聡先生の『日蓮に学ぶレジリエンス』という著書によるものです。

先生は、仏教学者であり、浄土宗の僧侶でもあります。他宗、それも浄土宗の僧侶が、「日蓮に学ぶ」と題した著書を出版し、日蓮聖人の生き方こそ「レジリエンスと称せずして何と呼ぶべきか」と仰るのです。

日蓮聖人は、そのご生涯に於いて「大難は四箇度、小難は数知れず」といわれる通り、法華経を弘めるが故に、多くの迫害を受けられ、命を落とすほどの困難の度に、更に法華経への信心を深くし、立ち上がるばかりか更に強さを増し、衆生救済を尽くされました。

今、このような困難な時代を生きる私たち、そして世の中の組織や社会構造にとっても「レジリエンス」という概念は重要なキーワードとなっていくことでしょう。皆さんには、在学中に様々な事を学ぶ中

◆丸茂玄昌会長より入学生へお祝いのご挨拶



令和四年度新入学生の皆さん、ご師範、保護者の皆様、身延山大学へのご入学、誠におめでとうございます。保護者を代表いたしまして、特に新入生の皆様一言お祝いの言葉を申し上げたいと存じます。

世界的コロナパンデミックを目の当たりに経験し、急激に変化する社会で、以前の学校生活日常生活も変わってしまい、心身ともに疲弊していったことでしょうか。しかし、世の中はどのように変わったのでしょうか。皆さんは今どのように感じているのでしょうか。こんな時代は嫌ですか。それとも、色々なことが目まぐるしく変わっていく事に期待はしていませんか。全世界の若い世

で、どうか日蓮聖人の生き方を大いに学び、人生における困難を乗り越える強靱な心を養って頂きたいと思えます。その強さが必ず、人に優しさや導きを与えることに繋がると信じております。



誓いの言葉を述べる佐藤文哉さん

代の人たちも同じく疲弊し、それでもこれからの未来に期待し、夢を膨らませ歩きはじめているに違いないと思うのです。皆さんはそれぞれの想いを抱き、期待や不安な気持ちも胸に、この大学に入学されたと思います。コロナ禍のあの暗い気持ちではなく、明るく、まだ小さいけれど夢を抱き、不安はあるけれど希望に満ちているのではあるでしょうか。大学での学びはこれまでの皆さんの思いとは少し違ってくるかもしれません。それは決して受動的ではありません。自らが求めて行く学びへと変わってきます。それは将来皆さんが社会に立った時、それぞれの専門分野で大きく羽ばたく力になるのです。ご承知のように、この大学は、釈尊の普遍的な尊い教えと、日蓮大聖人がそのご生涯かけて貫かれた法華経の精神に育まれた大学です。日蓮大聖人の魂が棲む、宗門最大の聖地に建つ素晴らしい大学です。大学生活の四年間は、皆さんの人生にとってわずかな時間です。しかしここで学び、生活は、必ず皆さんの貴いイデオロギートとなり、社会で活躍のできる原動力になるはずですよ。どうか、大学での学び、生活が有意義な時間になりますようにお祈り申し上げ、結びとします。



総本山身延山久遠寺御用
日蓮宗祈禱大荒行堂御用

浪花屋珠数仏具店
店主 深沢永寿

御数珠調製・仏像・仏具・軸物・印伝
各種記念品等その他のご注文
お気軽にご用命下さい

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町上町
TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771

智寂坊

住職 池上要靖
身延山大学仏教学部長

〒409-2524
山梨県南巨摩郡身延町身延3582
Tel 0556-62-0149

樋澤坊

住職 望月海慧
身延山大学副学長
国際日蓮学研究所長

〒409-2524
山梨県南巨摩郡身延町身延3600
Tel 0556-62-0050

惠日寺

住職 池内円海
身延山大学保護者会元会長
身延山大学保護者会顧問

〒299-5226
千葉県勝浦市串浜753
Tel 0470-73-1524

令和四年度 身延山大学保護者会総会中止

令和四年度身延山大学保護者会総会も、令和三年度同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、開催は中止とされた。

そのため、昨年同様、令和四年六月二十日付けで、議案事項の資料を全保護者に郵送し、書面での審議となった。

議事

第一号議案

- 一、令和三年度事業報告
- 二、令和三年度収支決算報告

第二号議案

- 一、新役員承認の件
- (一) 会長・副会長
- (二) 会計監査
- (三) 理事

第三号議案

- 一、令和四年度事業計画
- 二、令和四年度予算

第四号議案 その他

一、大学への寄付金 百二十万円
今年度もスクールバス等への継続的な援助金百万円と平成二十二年度から開始した

奨学事業である身延山学園同窓会・身延山大学保護者会奨学金二十万円の合計百二十万円を身延山大学へ寄付の実施。

二、顧問承認の件

会則第八条に則り、前会長の小倉是勇氏を前例に倣い、顧問推薦の承認。

※ご質問やご意見等、また書類の不備等があった場合は、令和四年六月二十日(三十日まで)を受付期間とし、問合せ先の保護者会事務局が連絡を受け、役員内にて再審議及び訂正を行った上で再度理事会に提案及び審議を経て保護者会員の皆様に再提案する流れとしました。

以上、保護者会員皆様から否認等のお答えやご意見は、保護者会事務局に寄せられませんでした。よって、全て承認された事を報告させていただきます。

令和四年度役員・理事

役員

- 会長 丸茂 玄昌氏 (山梨)
- 副会長 望月 淨教氏 (山梨)
- 副会長 杉町 智元氏 (山梨)
- 会計監査 児島 孝治氏 (山梨)
- 会計監査 小林 賢光氏 (静岡)

ンパン県世界遺産地域において、仏像修復活動を行っています。

続か廃業かの線引きがより明確になってきていることを実感しています。私達仏像に携わる者はその伝統と現代社会の差異について真摯に向き合わなければならぬ転換期を生きているのだと思います。

ラオス世界遺産仏像修復

本学では工房を中心に平成十二年からラオス人民民主共和国(以下ラオス国)ルア



大きな社会変革や、約二十二年もの内戦の結果国土が荒廃し、国土の復興と経済活動が優先され、仏像の荒廃状況には何ら施策がされていませんでした。本事業はラオス国情報文化観光省との共同事業であるものの、修復方法やデータに関する情報が極端に乏しく、自分達で調査や修復方法の模索から始めるというスタートでした。調査の結果世界遺産地域内三十五か寺だけでも実に千七百七十四体の仏像が祀りされており、その多くは修復が必要な状態にあることが我々の調査により初めて判明しました。

平成二十一年からはラオス国立工芸大学との人材育成事業を始め、工芸大学講師陣と一緒に年に約三週間、二十名程のチームで修復・調査を行っています。通訳を介しますが、特に技法のこととなると、言葉の理解に関係なく実際にやって見せ・学ぶというスタイルがなんとほほえましい現場です。

本事業ではこれまでに約百体の仏像修復を完了し、現地からの要請もあつて、木彫仏だけではなく鑄造仏の修復も行っています。コロナ禍によってこの二年は現地へ渡航できていない状況が続いています。情勢の変化等をよく注視し、何とか本年度は事業を再開したいと考えています。

理事

- 北海道地区理事 金森 一眞氏
- 北海道地区理事 山口 龍泰氏
- 東北地区理事 山崎 随祥氏
- 東北地区理事 砂子田 裕貴氏
- 関東地区理事 児玉 常見氏
- 関東地区理事 村上 宏壽氏
- 中部北陸地区理事 藤塚 智徳氏
- 中部北陸地区理事 森脇 泰二氏
- 近畿地区理事 山本 和紀氏
- 近畿地区理事 古志 彰啓氏
- 山梨静岡地区理事 郷 是孝氏
- 山梨静岡地区理事 田中 宏招氏
- 山梨静岡地区理事 小林 勇太氏
- 中国四国地区理事 谷口 玄文氏
- 九州地区理事 松島 正龍氏
- 九州地区理事 瀧上 本英氏

◆仏像制作修復室の活動

仏像制作修復室(以下工房)では柳本教授のもと、卒業生がプロとして仕事をし、その下で学生が日夜技術を学んでいます。私達はこれまで仏像の制作と修復を中心に様々な活動を行ってきました。それは柳本教授の「伝統技術は社会に必要とされて生き残ることが出来る」という考えによるものです。便利で安価で革新的な技術が追い求められる現代人にとって、伝統という言葉は、多分に矛盾をはらんだ言葉であるともいえます。特にコロナ禍に入ってから伝統技法を取り巻く環境は非常に厳しく、継

東北大震災慰霊仏二体の建立



平成二十三年三月十一日に東北で起きた大震災は多くの尊い命を奪ったことは記憶に新しいと思います。当時本学特任教授であった吉田永正先生(甲府市永照寺)はすぐさま被災地へ赴き被災者支援を行いました。柳本教授も吉田先生に同行し、現地の状況やそこで起こった数々の悲惨な話を見聞きしてきたそうです。程なくしてお二人が被災地へ仏像を建立したいと祈念するに至ったのはとても自然なことでした。



東京銀座で展覧会を開催

約五年の月日をかけて岩手県陸前高田市に高さ約三・六メートルの悲母観音像を、宮城県仙台市に高さ約二・六メートルの慈母観音像を順次お送りすることが出来ました。

「仏像造りとして出来ることをしよう」
「この仏さんは作ってるんじゃないよ。作らせてもらっているんだ」柳本教授は今でもこういった言葉を私達に投げかけます。当時作業しているときにはあまり理解していませんでしたが、現在は教授のもとで多くを経験させてもらうにつれ、なんとなくではありますが教授の言葉が私なりに理解でき始めていると感じています。

前述したとおり、伝統技術を継承してゆくのは非常に困難な時代であります。その中においても工房卒業生が制作集団彫玄として仏像の制作・修復業に従事している私達の工房は稀な存在であるといえます。今回はその卒業生六名が中心となり各々の作品を合計五十点展示させていただきました。



工房は、今年開設より二十三年を迎え、令和四年十月に東京の銀座において、「佛／美展―あたらしい仏教美術のかたち」を開催しました。

開催にあたりご協力を賜りました方々、日頃より工房の諸活動にご助力いただいている全ての方たちに感謝申し上げます。

工房はまだ年齢も経験も若い集団ですが、この度の展覧会が柳本教授の「伝統技術は社会に必要とされて生き残ることが出来る」という問いかけと現在の状況に向かつて放つ私たちの一つの答えであったと思います。自問自答を繰り返しながら進む私たちの活動をどうか皆様、末永く見守っていただきますようお願いを申し上げます。

